

感謝の言葉

令和2年8月5日「校舎ありがとうの会」

これまでお世話になった校舎に、心を込めて感謝の言葉を贈ります。雨の日も、風の日も、どんなときでも私たちを守ってくれたこの校舎。この校舎でたくさんの友達ができました。また、たくさんの思い出ができました。時には泣き、時には笑い、多くのことを学び、この学校で大きく、大きく成長することができました。僕たち、私たちがだけではありません。この学校から16358人の人が卒業していきました。この学校で学んだすべての人の想いを胸に、今、感謝の気持ちを伝えましょう。お世話になったこの校舎へ—— ありがとうございました。(在校生二同)



↑ 児童一人ひとりが旧校舎への思いをつづったメッセージボードも「校舎ありがとうの会」の式典中に披露された。

学び舎へ伝えた感謝

1万6千358人のあふれる想いを胸に



令和2年、コロナ禍の中でひっそりと閉校した金田小学校。全校児童で今までの感謝を伝えようと旧校舎で過ごす最後の日に「校舎ありがとうの会」を開きました。子どもたちが「ゼロ」から作り上げた学び舎での最後の十分間。子どもたちは何を想い、そして何を感じていたのでしょいか——。



金

田義務教育学校の前期課程(1~6年生)の全児童440人は、8月5日に旧校舎で「校舎ありがとうの会」を開催しました。この会は「思い出いっぱい旧校舎に感謝を伝えたい」と児童運営委員会を中心に7月上旬から企画し、準備。臨時休校による学習の遅れを取り戻すため、児童にとっては大切な授

業が連続する中、昼休みなどの空き時間を費やし、全てがゼロの状態から子どもたちの力だけで開会へとこぎつけました。そして迎えた旧校舎で過ごす最後の日。太陽の光がじりじりと照りつける中開かれた「校舎ありがとうの会」。全校児童で練習を重ねてきた「感謝の言葉」に始まり、旧校舎で歌う最後の校歌を斉唱しました。式の最後には、各学年の代表者など7人が目頭を熱くしながら感謝の気持ちを込めたバルーンを大空へとリリース。子どもたちは、旧校舎で過ごした日々を想いを馳せながら、天高く登っていく風船をいつまでも見上げていました。

Interview With Teacher!

成長を目の当たりにした体験に

「校舎ありがとうの会」のほぼ全てを子どもたちの手で作り上げました。児童会担当教員として見守ってきたこの集会を無事やり遂げたことに感動したとともに、児童の成長をうれしく感じています。新校舎での学校生活でも「人間力」の向上につながる活動に携わっていきたいと思います。



児童会担当教員
なかの ぎんき
中野 弦己 さん

Interview With Student!

悔しさを「思い出に残る集会」へ

当日の集会は、みんなと協力して無事成功することができました。卒業式ができなかったのは本当に残念ですが、最後に思い出に残る「校舎ありがとうの会」ができたのでよかったです。2学期から新校舎での生活が始まりますが、これからも学校を盛り上げる活動を行っていきたいです。



児童運営委員長(小6)
かわにし さらさ
川西 彩紗 さん

